

## 令和5年第1回観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市観光振興計画協議会
開催日時	令和5年10月4日(水) 午後7時～午後9時
開催場所	立川市役所205会議室
次第	<p>1.開会          2.総合政策部長挨拶          3.委嘱状伝達          4.委員自己紹介          5.会長及び副会長選出          6.議題          (1)立川市観光振興計画協議会について【資料1】          (2)立川市観光振興計画の位置づけ及び構成について【資料2】          (3)立川市第3次観光振興計画の進捗状況について(報告)【資料3】          (4)立川市内における撮影支援の状況・実績について【資料4】          (5)シェアサイクル関連キャンペーンの実施について【資料5】          (6)令和5年10月以降の大型イベント情報について【資料6】          (7)観光に関するデータ活用について【資料7】</p>
配布資料	<p>1.立川市観光振興計画協議会について          2.立川市第3次観光振興計画の概要          3.立川市第3次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート          4.立川市内における撮影支援の状況・実績について          5.シェアサイクル関連キャンペーンの実施について          6.令和5年10月以降の大型イベント情報について          7.観光に関するデータ活用について          8.立川市観光振興計画協議会委員名簿</p>
出席者	<p>〔構成員〕 会長 中野史朗、副会長 岩下光明、田中光徳、高島優、戸島慶太、峰岸徹、矢部直人、青木祥民、本間義信、後田洋平、相原俊則、大塚正也(総合政策部長)</p> <p>〔事務局〕 太田勇(シティプロモーション推進担当課長)、小山裕二郎(観光振興係長)、菅野賀陽(観光振興係)、藤戸茉理亜(観光振興係)</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果及び要旨	<p>1.立川市第3次観光振興計画の進捗報告と、意見交換を行った。</p> <p>2.次回日程は令和6年3月に開催予定とする。</p>
担当	総合政策部広報課シティプロモーション推進担当課観光振興係 電話 042-529-8562

## 1.開会

### 2.総合政策部長挨拶

皆さん、こんばんは。お忙しいところ、この立川市の観光振興計画協議会ということで、委員を引き受けていただきまして、ありがとうございます。

今、第3次の観光振興計画というところで、その取り組みに対して、ご意見をこれからいただきしていくところなのですけども、またひとつ、令和7年度からスタートします。この立川の大きな10年の方針を決める第5次の計画を、これから急ピッチで進めていきます。その中で、やはり「観光」「シティプロモーション」という概念は、非常に重要な要素となってきます。

そういうところに、この協議会でいただいたいろいろなご意見、方向性というものをそこにまた落とし込んでいければと思います。様々な角度から発展的なご意見をいただければと思いませんので、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 3.委嘱状伝達

### 4.委員自己紹介

### 5.会長及び副会長選出

互選により、会長に中野史朗委員、副会長に岩下光明委員が選出された。

### 6.議題

#### (1)立川市観光振興計画協議会について

(会長)

初めに、(1)立川市観光振興計画協議会について、資料1の説明を事務局からお願ひします。

(事務局)

では資料1をご覧ください。立川市の観光振興計画協議会ということで、今回初めてご参加いただいた方もいらっしゃいますので、既にご存知の方は、振り返るという意味で、お聞きいただければ思っております。

こちらの協議会ですが、以前は計画を策定する際に協議会を組織して、策定後は解散していましたが、第3次観光振興計画から、策定して終わりではなくて、策定した後も、進捗管理をしていただくということで、この協議会を定期的に開催しているところでございます。行政側としても、年間2回ほど開催させていただいて、その中で、皆様からご意見をいただいて、それをまた反映しつつやっていくというような場として設定しているところです。今回なられた委員の皆様につきましては、ぜひ、自由闊達にお話をいただければと

思っております。なお、協議会の任命期間につきましては、令和5年の10月から令和7年3月となっております。令和5年度につきましては今回含め2回、令和6年度につきまして、新たな計画の策定期間になりますので、計6回を予定しており、委員の皆様にはお忙しい中、ご協力いただくことになりますが、ご理解をいただきまして、積極的にご参加いただければなと思っております。

(会長)

説明がありました件で、何かご質問等はございますか。議題(1)に関しましては、これでよろしいですね。設置要項の第5条のところに必要がある状況の場合には委員以外の出席を求めることができるという記載がありますので、今後協議を見ていく中でご要望があれば事務局の方に、言っていただければと思います。

## (2)立川市観光振興計画の位置づけ及び構成について

(会長)

それでは、(2)の立川市観光振興計画の位置づけ及び構成について、説明をお願いいたします。

(事務局)

はい、それでは説明をさせていただきます。

皆様、お手元に、この第3次観光振興計画をご覧いただき、参考資料1と参考資料2をご用意していただきながら、資料2を中心を見ていただくという形になりますので、よろしくお願いします。

まず、この資料2に沿って説明させていただきます。基本的に、行政の場合には、最上位計画ということで、長期総合計画というものをやっております。それが、先ほど説明した令和7年度から新しい長期総合計画、立川市が今後10年間何をするかという1番大きな計画があります。その計画の下に紐づく個別の計画がそれぞれあります。様々な分野の中の1つである「観光」をどのように推進していくかという計画が観光振興計画でございます。

現在の最上位計画は第4次長期総合計画という計画ですが、その町の将来像、10年後の将来像、要は令和6年度の将来像が「にぎわいと安らぎの交流都市」を目指そうという計画でしたので、観光振興計画についてもこの将来像に向かって取り組んでいこうという整理をしております。

第3次観光振興計画についてですが、第1章が計画の策定で、第2章が立川市における観光振興の必要性、第3章に立川市が目指す将来像や、観光振興の動向、立川市の現状と課題などをまとめております。長期総合計画では、にぎわいと安らぎの交流都市・立川という将来像がありましたが、そこを、観光分野に落とし込んだ時に、『あなたの好きと会えるまち、立川』というフレーズを設定して、各戦略に取り組んでいるところでございます。立川と観光という言葉は少し結びつきにくいイメージがあるかもしれません、い

わゆる都市観光という話になってきますが、「異日常」という言葉をここでは使っていて、日常だけれども、普段の日常ではない経験が得られる、それがショッピングであったり、飲食であったりなど、様々な要素が立川にはある、という考え方として整理しています。

第4章におきましては、国や東京都の動向についてまとめています。ここで少し見ていただきたいのがこの資料の1でございます。作った当時は、令和2年6月から計画がスタートしていますので、平成31年度、コロナが来るか来ないかぐらいの頃に数字を作っています。実際どうかというと、皆さんもご承知の通り、参考資料1の1番上、令和4年度の来訪者数等について、中心市街地の来訪者数、我々の掲んでいる数字ですけれども、中心市街地の来訪者、平成31年度、4010万人で、令和2年、令和3年、令和4年ということで、かなりコロナの影響を受けているという状況になって、回復途上にあるということになっています。このことは、国が提供するシステム「RESAS」から得たデータでも確認することができます。

第5章にも関わってきますが、コロナ禍においてかなり落ち込んでいた宿泊者数についても、データから回復傾向にあることが読み取れます。構成割合も、都外割合が上昇傾向にあります。イベントの来場者数についても、回復傾向にはありますが、コロナ禍前と比較するとまだ回復途上であると分析できます。

第6章においては、目指す将来像について、それぞれ、項目を分けて、立川を見つける、立川をつなぐ、立川をつくる、立川を知らせる、立川を支える、立川を広げるといった視点で、いろんなことをやっていきましょうという、細かい施策が書いてあるところになっています。

最後に、第7章ということで、計画をどのように推進するかという内容となっています。以上が観光振興計画の説明でございます。

(会長)

何か皆様からご質問はございますか。

(B委員)

質問ではないのですが、宿泊者数のデータは出ていますが、昨年の今ぐらいから急回復してきていて、多分、どの施設も今年は、ほぼマックスの状態で、大体80パーセントの稼働率を示しているので、これ以上増えないのですが、パレスホテル立川が廃業されるとということで、フル稼働していない段階で年間10万人分ぐらいの宿もなくなると思います。なので、今後起こる状況としては、泊まりたいけど泊まれないということが、発生してきます。今月、箱根駅伝予選会ありますね。立川の客室が大体全部で1500室ほどですが今年10校増え、選手が1200人くらいになってしまって、多分、新しく参加されるところは立川市からかなり遠くのところで、宿を探すことになってしまうと思います。来年、どうなるのかっていうのは、我々その事業者としてもまだ見えてきていない部分があって、1月、2月、受験の時期、試験を受けるのに、立川をベースキャンプとして受ける

方がかなり多い状況ですけれども、受験生が泊まる宿はかなり足りなくなると予想されます。

宿泊を伴う観光客が増えて、受け入れられないという状況が現状としてあることをご理解いただきたいと思います。多摩地区全体としても昨年、京王プラザ多摩さんが閉館されました。八王子のホテルニューグランドさんも閉館もされますし、コロナ禍で、小規模零細のホテルの廃業はそれなりにあって、全体としても宿泊施設が足りなくなる可能性が高いです。都心部は、オリンピックの需要で、かなり、たくさんのホテルが建設されたのですけれども、多摩地区に関しては、新しいホテルの進出がほとんどないため、このまま宿泊施設が足りない状態が続いてくると思います。

(会長)

私も以前から、宿泊施設が少ないという話は聞いていました。今回、パレスホテル立川の閉館が決まったというところで、宿泊もそうですけど、コンベンションホールもなくなってしまうところが、ネックだと思います。

(G 委員)

宿泊者数が戻ってきたということ、大変嬉しいことなのですけども、単価の方は上がっていますか。

(B 委員)

上がっています。都心部が急回復しているのと合わせてですね。多摩地区にもその波が来ていて、大体、50 パーセントぐらい上がっています。

(G 委員)

いつに対して 50 パーセント上がっていますか。

(B 委員)

コロナ前からすると、3割ぐらいです。今後、上がっていきます。ほとんどのホテルが AI で値決めしているので、自分たちの心意的な感情なしで、値決めされてきますので、算出すると、稼働が高くて、需要が強いのだから、上げなさいという結果になります。

(事務局)

ありがとうございました。

(3)立川市第3次観光振興計画の進捗状況について(報告)

(会長)

続いて、(3) の第 3 次観光振興計画の進捗状況について、よろしくお願ひいたします。

(事務局)

このように、B 委員のように、現場というか、実際どういうものかっていうのが事務局も全然見えてない部分がありますので、是非皆さんも、忌憚のないご意見ですとか、お聞かせいただければと思っております。

資料3の方を、見ていただきながら、それぞれ戦略、1から6まで説明をさせていただきます。

1ページ目でございますけれども、今年は、1-2の方ですね、立川観光コンベンション協会、この説明は、令和5年度を説明させていただきます。観光推奨認定品と来たのですけども、観光推奨認定品って言っても、伝わりにくいので、立川観光コンベンション協会としては、ブランド力を高めるということで、名前としては、「立川の太鼓判」といったような名前で、デザインみたいのを決めつつそこが出れば、観光推奨認定品を売っている、または売っている事業者がいるっていうのが分かるようなブランド化を進めていると伺っております。

戦略2の全域の観光資源イベントを連携させる、新たな連携事業ということで、立川体験スタンプラリーの開催でございます。元々、立川体験スタンプラリーの趣旨としましては、立川市、国営昭和記念公園とか、国の研究機関とか、知ってもらうというような趣旨で、スタンプラリーをしていたのですが、コロナになりました、各施設等イベントが全くないという状況になってしましましたので、昨年度までは、立川お土産品発見スタンプラリーということで、商品を売っている店に行っていただいて、推奨認定品を、皆さんに知ってもらおうといったイベントをしておりました。今年度につきましては、立川体験スタンプラリーをやろうということで、立川観光コンベンション協会を中心に検討を進めています、10月から11月にかけてやるということとなっております。

次に3ページ目になります。都市ブランドの編集、ブランドメッセージの活用ということで、立川市のシティプロモーションの推進基本指針の中で、立川市の住んでいる人、ライフスタイルを表すメッセージということで、『立川くらいが1番いい』というブランドメッセージを、令和2年度に定めました。その定めたブランドメッセージを使いつつ、令和3年、令和4年度で、様々な活動に取り組んできたところです。実際には、立川駅の券売機のところに、明星大学の方にもご協力いただいて、ブランドメッセージの入った横断幕を、3か月ぐらい掲示いたしました。ほか、立川市でプロスポーツチームが色々活動していますので、プロスポーツチームの試合に行って立川市のイメージを皆さんと共有するために、立川に来ますか、立川のイメージはなんですか、立川くらいが1番いいっていう、あなたにとっての1番いいのはなんですか、というようなことを聞きながら、付箋に色々書いてもらって、それを共有して、立川って、そんなところなのだよというのを、来訪者の方にこう浸透させていった形の活動していました。新市長が就任されまして、このブランドメッセージにつきましては、行政が使うと、自己満足を表してしまうようなメッセージであるということでした。令和7年度から、新しい長期総合計画が始まりますので、今は、「にぎわいと安らぎの交流都市立川」というのが、まちの将来像になっているのですが、その将来像も、おそらく変わってくるだろうということも合わせて考えると、これは変えなきゃいけないということもございます。現在、立川市といたしましては、まずは、次のまちの将来像がどうなるかで、それに伴って新しいブランドメッセー

ジを、検討していきましょうといったような流れになっておりますので。色々、事業者の方々には、『立川くらいが1番いい』のブランドメッセージを色々使っていただいたところではございますが、今後につきましては、いずれ変わってくるということも含めますので、名刺からも抜けるということになってまいります。

(事務局)

続きまして、戦略4について説明します。プラチナマップの導入について、立川観光コンベンション協会のホームページ「たちかわ観光ナビ」と連動したデジタルマップの作成を進めています。こちらについて、担当から補足説明をお願いします。

(事務局)

では、スライドをご覧ください。こちらが立川観光コンベンション協会のホームページ「たちかわ観光ナビ」でございます。こちらに掲載しているイベント情報や観光スポット情報を、プラチナマップという、デジタルマップに掲載するための作業を進めております。こちらは、観光スポットに特化したデジタル版のマップと捉えていただければと思います。近隣の例ですと、府中市が導入しているデジタルマップをスライドに表示しております。このように、特定のお店をピックアップして掲載できます。また、追加の機能として、特定のイベントに参加している店舗のみを表示するメニューや、デジタルスタンプラリーやクーポンの発行なども、別途コストがかかりますが可能です。

このデジタルマップを導入することで、立川の観光スポットより巡りやすくしたり、観光に関する情報発信の強化を実現できると考えています。実際の導入は令和6年2月頃を予定しています。

(事務局)

ありがとうございます。戦略4については、他にもMICE推進に取り組んでいますが、その計画の中核施設として位置付けていたパレスホテル立川が、令和5年12月に閉館することが決まっており、これまで想定していた形でのMICE推進は困難であるという認識でいます。隣接する八王子市に大規模コンベンション施設「東京たま未来メッセ」が設置されたこともありますので、立川が取り組むべきMICE推進の方向性について、立川観光コンベンション協会とともに見直しを行っているところです。

(事務局)

続きまして、戦略5について説明いたします。市では、令和5年7月から新たに観光データ分析ツールを導入しております。また、東京都の支援事業「DXによる観光データ活用等支援事業」の支援対象団体に採択され、東京都の支援を受けながら観光に関するデータ活用について検討を進めているところです。こちらの詳細については、後ほど資料7で説明いたします。

続きまして、戦略6についてです。立川市内において、シェアサイクルの実証実験を令和4年4月から事業者が主体となり始めております。令和5年8月末時点で38ステーションが市内各所に設置されております。シェアサイクルについては、後ほど資料5に基づ

いて詳細を説明いたします。資料3に関する説明は以上です。

(会長)

立川観光コンベンション協会に関する事業について補足いたします。立川観光コンベンション協会推奨認定品について、これまで年1回のみの審査で認定していたのですが、令和5年度からは、申請があったときに随時審査するという形にして、推奨認定品を増やしていくという取り組みをしています。また、国営昭和記念公園内の推奨認定品の販売も、昭和記念公園の協力のもと、令和5年度中に予定しているところです。

(事務局)

補足いただきありがとうございます。

(会長)

では、委員の皆様から何かご質問等ありますでしょうか。

(H委員)

シェアサイクルに関して、市内で稼働している台数はどのくらいなのでしょうか。

(事務局)

ステーションの数は38、1ステーションあたりのラック数が7.2となっており、合計ラック数は275です。シェアサイクルのステーション設置には、ある程度のスペースが必要となるため、設置できる場所が限られるという課題があり、ステーション数が38にとどまっているが現状です。

(H委員)

先日、昔住んでいた荻窪に行った時に、せっかくだからとシェアサイクルに乗ったのですが、乗ったのはいいが返すステーションが限られてしまうため、結果的に行きたいところに行けないということがありました。そういう体験から、ステーションの数が増えることが利用率を上げることにつながるのではないかと感じ、そういった利便性いうのはものすごく大切なと思ったので、質問しました。

(事務局)

立川においても、駅前に設置されていないなど、人が多く集まるところに置けてないため、利便性の向上はまだ余地があると思います。

(副会長)

駅の近くに置けていないというのは、場所がないということなのでしょうか。

(事務局)

場所がないことも理由の1つではありますが、場所があるように見えて、設置するには壁面後退に対応しなくてはいけないとか、ルール上の制約がある場合もあります。

それに加え、公共交通事業者の視点だと、代替となる交通手段ともなりえますので、脅威に感じるという意見も聞いております。そういった中で、既存の交通手段に加え、電動キックボード、シェアサイクルを含めたときに、交通の全体最適をどう図るか、ということは大きな課題であると認識しています。

**(G 委員)**

オニ公園のところにステーションがあるのですが、1台も止まっているのを見たことがないです。

**(事務局)**

利用者の目的地によって、ラックにあるシェアサイクルの台数に差が出てくると思います。

**(副会長)**

私の会社が保有する 61 室のシェアアパート敷地内にシェアサイクルのステーションを設置していただいたのですが、それが住んでいる方に好評で、こういう施設インフラがあるから入居したいという意見も聞くので、こういった施設はニーズがあるのだと実感しました。また、南口の駅前にベンチを設置させていただいているのですが、放置自転車が止められてしまっているようなスペースに、観光の切り口で有効活用していただけるよう社会実験をしていただける余地があるのかなと感じています。

**(会長)**

サンサンロードの自転車が怖い、という意見が利用者からあり、何かしらの規制があつたほうがいいのではないかと意見もあります。最近は GREEN SPRINGS がたりと、通行量が以前と比較してかなり増加しているので、そういった対策も必要かなと感じています。

**(J 委員)**

市のほうでも、サンサンロードでの自転車やスケートボードなどの危険な運転・行為についてはご意見をいただいているところで、非常に多くの方が歩いている場所なので、何らかの対策が必要ではないかと考えています。

**(F 委員)**

シェアサイクルの件ですが、私が住む一番町の地域では、シェアサイクルが導入されていない昭島駅が日常使いをするうえでの場所になるので、そこにステーションがないというのがもったいないと感じています。

**(事務局)**

昭島市での導入を検討しているという情報はあります。

**(F 委員)**

昭島駅にも導入されれば、立川市での利用率向上につながると思います。

**(H 委員)**

立川体験スタンプラリーについて、この取り組みをやっていることを広く周知しないと、せっかくやっているのにあまり知られないという状況になってしまうと思います。どういう方をターゲットにして、どうやって取り組んでいこうとしているのかをお伺いしたいです。

**(事務局)**

対象となるイベントや施設に来た方が、このチラシを見て、それ以外のイベントなどを知っていただき、目当てとして来たイベントや施設以外にも関心を持っていただいたら、回遊性を向上させるなどのねらいがあります。

#### (4)立川市内における撮影支援の状況・実績について【資料4】

(会長)

では、続いて、「立川市内における撮影支援の状況・実績について」事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料4をご覧ください。立川観光コンベンション協会では、ロケーションサービス事業に取り組んでおります。株式会社ディ・ナイトと立川観光コンベンション協会が協定を締結し、「立川ロケーションサービス」として、それぞれ役割分担をしながら、撮影の現場立ち合いや事前調整、相談の問い合わせ、ロケ弁提供店舗の紹介など、収益事業として展開しております。資料記載の通り、問い合わせ件数、実施件数とともに増加傾向にあります。作品によっては、立川をメインの舞台にしていただいているものもあり、ロケーションを紹介するマップを作成するなどして、いわゆる「聖地巡礼」につなげる取り組みも行っております。こちらの取り組みについては、シティプロモーションの一環であり、街への愛着を増やすきっかけになるので、引き続き取り組んでいきたいと考えております。こちらの取り組みについては、令和2年度以前は立川市が直接撮影事業者の問い合わせを受け、現場対応なども行っておりましたが、立川には撮影地としての需要があり、収益事業としての可能性もあることが分かったため、令和2年7月より、現在の形で民による取り組みとしてロケーションサービスを展開しています。

(会長)

この議題に関して、何かご質問はありますでしょうか。特にないようなので、次の議題に移ります。では、事務局から、議題5について説明をお願いします。

#### (5)シェアサイクル関連キャンペーンの実施について

(事務局)

先ほども概要は説明いたしましたが、10月1日から11月30日の期間、7市連携でシェアサイクルのキャンペーンを実施いたします。昨年度は、立川市と福生市の2市でキャンペーンを実施したのですが、地理的に離れているということもあり、参加者数はあまり伸びずに終わってしまいました。今回は、隣接する7市が参加するということで、参加者数の増加が期待できると考えております。

ここで、簡単にシェアサイクルについて説明いたします。実際のシェアサイクルのステーションは、市役所前にもありますが、スライドのようなイメージです。また、立川市では現在、38か所あり、スライドのような分布になっております。ご覧の通り、ステーショ

ンが少ない部分も見受けられますので、利便性の高いところを増やしたり、少ないところを埋めていくというように、まだ取り組む余地はあると考えています。利用回数に関しては、増加傾向にあります、ステーションの数については、令和5年3月時点では40か所あったものが38か所に減少したのですが、利用回数自体は増えているという実績が見て取れます。ステーションの減少理由については、市営の駐輪場が廃止となったり、民間事業者が廃業したりなどの理由があります。利用回数が増えていることから、シェアサイクルの存在自体は少しづつ浸透してきているのかなという印象があります。

続いてのスライドは、曜日ごとの利用数です。こちらについては、平日よりも土日の利用が多いことがわかります。このことから、観光利用の可能性も一定程度あるのではないかという風に分析しております。

次のスライドは、ステーション間の移動（市内→市内、市外→市内、市内→市外）の量を色別で示したデータです。それぞれの回数割合はほぼ均等となっております。

次のスライドは、利用者のステーション間の移動距離を回数で示した数字です。0キロは同一ステーションで借りて返すという方だと思われます。ボリュームゾーンが、1キロから3.5キロぐらいで利用されてる方で、少し離れて10キロの利用回数が突出しておりますが、これは特定の方、またはグループが多く使っているのではないかという推測ができます。このようなデータについても、分析する中で、どのような回遊性が生まれるか、市域間の移動だとか、そういった可能性はあるのではないかと考えております。

次は、ステーション数のスライドです。立川市では、ステーション数は横ばいになっております。ステーションの空白地域もありますので、そこを埋めていく、ステーションを増やしていく、ということがやはり重要だと思います。

また、東大和市及び昭島市も導入を検討しているとの情報が入っておりますので、地図上の空白部分にも徐々にステーションが増えていくと予測できます。

続きまして、これに関連して、参考までに電動キックボートについての資料を提供いたしましたので、こちらをご紹介します。電動キックボードのポートは少ないスペースでも設置できるのが特徴で、1台から設置可能です。そういった特徴もあり、特に民有地でポート数が増えています。1年半前は立川市内のポート数は65か所だったんですけども、令和5年8月末時点では130か所と倍増しています。また、都内では電動キックボードの事故がニュースでも報道されるなど話題に上がりますが、立川市含めて、この実証実験期間内では671日無事故ということです。利用回数はポート数に比例して増加傾向にあります。特に立川駅付近では、バスの本数が減る20時以降に公共交通機関の代替用として使われる方が結構いらっしゃると分析できる傾向が見られ、そういったニーズにはあるようです。どちらかというと普段の交通手段を補完する移動手段としての用途が多いかと思いますが、観光目的での利用も可能性としてはあるのではないか、というふうに我々としては捉えております。説明は以上です。

(H委員)

シェアサイクルと電動キックボードの差別化という点でみると、どのようにとらえればよいのでしょうか。

(事務局)

1番はかっこよさであるかと思いますが、将来的な観点からすると、電動キックボードは3輪のものが導入されてくると、自動運転の対応が視野に入っているのではないかと思います。

(H 委員)

立川市の街中では車に乗っているとよく電動キックボードは見ます。自転車が好きな人は自分たちで乗って、その人たちが求めるのはステーションだと思うが、ステーションが少ないので課題だと感じていて、そういった中でシェアサイクルの利用率を上げていくのはどうすればよいのかと思い、難しいのではないかと感じました。

(事務局)

立川市でも始まって2年程度で、市としてもシェアサイクルと電動キックボードがどのように共存していくか、役割分担していくのかは手探りの状況です。高齢者の方は自転車がよい、といったことがあるかもしれません。電動キックボードは、最初乗るのは少し怖いと感じる方もいらっしゃるかもしれません。また、電動キックボードは決済手段がクレジットカード決済のみで、シェアサイクルは電子マネーなど幅広い決済方法があります。また、電動キックボードは省スペースでポートが置けるが、シェアサイクルはステーションを設置するのにかなりスペースが必要という差もあります。

(G 委員)

電動キックボードもシェアサイクルもそうなのですが、日常使いなのか、観光目的なのか、その目的別のデータというのはあるのでしょうか。

(事務局)

そういうデータを本当は欲しいところですが、用途については分析しきれていないです。そのための実証実験もあるかと思います。そのためにも、可能であればステーションやポートを設置してもらい、そういったデータを取れる状況にしたいのですが、それほどどの数にはまだ至っていないという状況です。

(G 委員)

では、目的別は難しいのですが、日時で見た時に、イベントがある日は多いとか少ないとかっていうデータはありますでしょうか。

(事務局)

そういったものはおそらく取れると思います。ただ、それでもやはり数自体が少ないので、少ない分母の中では、普段から頻繁に利用されている方が目立ってしまうため、もう少し利用を広げてかないといけないと感じます。ある程度傾向が確認できたとしても、偏りというか、信頼性には欠けるデータにはなるかもしれないという懸念があります。例えば西国立駅付近のポートに立川から行く人がいて、その人たちが通勤などでかなり使って

いるのではないかと推測されます。

(H 委員)

今の話で、立川から西国立に向かう方がいることがわかるということは、朝駅に向かっているので、当然通勤だろうとか、週末だったらどうかということが予測できると思うのですが、そういった中で、駅前ではないところで移動しているとか、ある地点から離れたところに移動しているとか、その通り道に何があるかなどを調べるなど、そういった分析はできるのではないかでしょうか。

(事務局)

おそらく、それはできると思います。そのために、このキャンペーンを使いながら、少しでも有用なデータが取れるといいと考えています。

(H 委員)

そうすれば、ここにもうちょっとステーションがあったら、すごく便利になるのではないか、という分析につながるのではないかと思います。ある人が気づいただけの道だけれども、周知すると使う人が増えるということが出てくるのではないかと感じます。

(事務局)

そういうケースは出てくると思います。

(H 委員)

ちなみに、あるユーザーが通った道は分かったりするのでしょうか。

(事務局)

そこまでのデータは取れないのではないかと思います。もしそういったシェアサイクル関連の分析についてお分かりであれば、E 委員、お願ひいたします。

(E 委員)

シェアサイクルについては専門ではなく、論文を読んだことがあるのですが、皆さんおっしゃるように、利用を増やすには、ステーションの密度を上げることがやはり重要というのが、共通の認識のようです。ステーションからステーションを、どのステーションからどのステーションへ動いたかというのを地図にして、線で繋いで線の太さで表すような、そういう地図を1枚作るだけでも、利用の実態が見えてくるのではないかと思います。

事務局から説明のあったデータについて、とても興味深かったのですが、休日の利用のほうが多いというので、観光利用がやはり多いのではないかと思います。そういった意味で観光に関してシェアサイクルのポテンシャルがあるのかなとデータを見ていて思いました。

あとは、シェアサイクルを運営する上では、他の研究を見ていると、運営側の手間が結構かかる。その手間が、利用率を上げるポイントだ、ということが書いてありました。自転車のメンテナンスをこまめにすると、あるステーションに偏ってしまう自転車を移動させて、需要のあるところに動かすとかですね、そういった運営側の手間が結構かかる

くる、ということのようです。あとは、自転車専用道、専用ゾーンを作るっていうのも利用率を上げることに関わってくるのではないかというような研究もあるようです。以上になります。

#### (6)令和5年10月以降の大型イベント情報について (会長)

続きまして、次の議題、令和5年10月以降の大型イベントの情報について、事務局より説明をお願いします。

##### (事務局)

それでは、資料6をご覧ください。令和3年度まではコロナ禍の影響であまりできなかったイベントが、令和4年度から令和5年度にかけては再開しており、特に令和5年度は非常に大きなイベントも再開いたしましたし、また、新しいイベント「キッチンカーグルメ選手権」は今週の土日に開催いたします。「よいと祭り」が14日、「スポーツフェスタ」が21日、「東京多摩移管130周年記念イベント」が月末の土日に開催いたします。関連チラシを机上に配布しておりますので、それぞれご覧ください。

##### (G委員)

羽衣町のねぶた祭りは開催されないのでしょうか。

##### (事務局)

主催者側が今後開催しないということを決めたということを聞いております。

##### (H委員)

今年度、コロナ禍の影響などで中止となったイベントはありますでしょうか。

##### (事務局)

コロナ禍を理由として開催を断念したイベントはないと思います。

##### (H委員)

そうすると、コロナ禍前と同程度のイベント数が行われることになるので、その実績値と比べると、来訪者数の比較分析ができるのではないかと思いました

##### (事務局)

そうですね。特に、今回の花火大会でも、かなりの人数にお越しいただきました。

##### (会長)

他にご質問等はありませんでしょうか。では、次の議題について説明をお願いいたします。

#### (7)観光に関するデータ活用について

##### (事務局)

では、資料7に基づきまして簡単に説明いたします。まず、DS.INSIGHTについてです。こちらは、LINEヤフー株式会社が提供するサービスで、収集した検索データと、位

置情報データを活用して、人々の興味、関心、トレンド、ニーズを可視化したり、人流や場所別の関心ごと可視化できるツールです。このサービスを令和5年7月から導入しており、現在、観光に関するデータ活用について検討を進めている状況です。

例えば、キーワード検索機能を利用し、「ふるさと納税」というキーワードが、どんなキーワードと一緒に検索されたのかを、年代、性別などで分かれたデータを取得できますので、このような検索がなされているので立川市でもこういう商品を扱ってもらおう、というように、データ分析に基づいた政策決定につながる取り組みとしてデータ分析を活用していくのではないかと考えており、観光分野はもちろんのこと、それ以外の分野においても活用を進めています。

市の他部署でも活用しており、現時点では20課ほどに対してアカウントを付与しております。また、このサービスから取得したデータを、観光振興計画の指標として活用できないかなども検討しております。また、情報発信する際に人々の関心を分析してから行うこと、より効果的な発信ができたり、大規模イベントの人流を分析したりというようなことが可能性として考えられます。今後、そういったデータを分析する中で、どのようなデータが必要か、こういったこともできるのではないか、など、委員の皆様とともに考えていければと思っております。

続きまして、観光予報プラットホームについて説明いたします。こちらは6か月先までの立川への宿泊情報データを集約して、観光予報として閲覧できるサービスです。宿泊に関する情報を観光施策にどう生かすかということも検討を進めなければと思っております。

続いて、A r c G I S（アークジーアイエス）です。こちらについては、まだ導入して間もない段階で、本日は概要の紹介にとどめさせていただければと思います。G I Sは「地理情報システム」です。例えば、駅周辺の宿泊施設のデータを取り込んで、地理情報として表示したり、客室数や宿泊数などのデータを取り込んで様々な方法で地図上に表示することでデータを可視化し、分析しやすくすることができるツールです。様々なデータを掛け合わせることで、多様な視点から分析ができるので、このツールを利用する可能性は高く感じているのですが、どのようなデータを取得し、取り込んで活用していくかを手探りで検討しているところです。

続いて、東京都「DXによる観光データ活用等支援事業」について説明いたします。令和5年度から6年度にかけて東京都が実施している、都内自治体への支援事業で、今回、立川市が支援対象自治体として申請し、採択されたものです。こちらにつきましては、観光振興計画の指標である来訪者数や消費額について再検討できないかなど、観光に関するデータ活用の見直しなどについて専門家にアドバイスを受けながら、立川観光コンベンション協会とともに検討を進めているところです。この協議会においても、支援事業の進捗状況を報告し、委員の皆様にもご意見等いただければと思っております。説明は以上です。

**(会長)**

この件に関して、委員の皆様から何かご質問等ありますでしょうか。

**(B 委員)**

観光予報プラットホームについてですが、コロナ禍におけるデータはあまり参考にならないと思います。そういう特殊な状況を踏まえた予報などは当然反映されないのでないでしょうか。

**(事務局)**

観光予報プラットホームにつきましては、昨年度においても専門家の方からご指摘いただいたのですが、やはりこの2年、3年のコロナ禍による影響によって、予測には相当な影響が出るだろうというご意見をいただいております。その点を踏まえて、このようにデータ分析していくかということに関しては課題として捉えています。また、最近のトレンドとしては個人旅行も増えてきていると聞いており、その数字もどのように考えていくのかということがあります。

**(B 委員)**

この収集されているデータというのは、大手旅行会社の予約情報を集約しているようなものなのでしょうか。海外の事業者が運営しているサービスを利用しているデータは入っているのでしょうか。

**(事務局)**

確認いたします（⇒後日確認したところ、店頭、国内ネット販売、海外向けサイトの販売を含む約1.7億泊のサンプリングデータを抽出していることを確認）

**(G 委員)**

宿泊施設の予約についてお伺いしたいのですが、いろいろな予約サイトがある中で、正確に空き状況が共有できているものなのでしょうか。

**(B 委員)**

基本的には、ある程度共有できています。操作が容易にできるシステムを導入していますので、予約状況や宿泊金額などはおおむね同様に表示されます。

**(事務局)**

観光予報プラットホームに関しては、すべての宿泊データを集約しているわけではなく、推計もしておりますので、完全に正確な数というわけではなく、ある程度の傾向がわかるというレベルであることをご理解いただければと思います。また、これまでホテル業界の方に直接お話しをお伺いする機会が少なかったので、B委員に実際の現場からのお話を伺えることはとても貴重だと感じております。

**(G 委員)**

次期計画を検討していく中で、こういう分析が欲しいとかこういうデータが欲しいということについては、行政側にデータ提供をお願いすることはできるのでしょうか。

**(事務局)**

データの種類にもよるかと思いますが、個人を特定できないような情報にしたうえでの提供なら可能なものもあるのではないかと思います。

(G 委員)

もし提供可能なものがありましたら、自分でも分析したいので、分析しやすい形式のデータで提供いただけだとありがとうございます。

(事務局)

行政でも、オープンデータ化は重要であると認識しておりますので、該当するデータがあるようでしたら提供させていただきたいと思います。

(D 委員)

このデータ分析の対象には、立川市民も該当するのでしょうか。国営昭和記念公園利用者のうち、立川市民が多くいるのではないかと思っています。観光のターゲットを考えたときに、立川市民を対象に含めるのかどうかという点はいかがでしょうか。

(事務局)

現計画の中では、立川市外からの来訪者を対象としております。次期計画を策定する中で、委員の皆様からのご意見もいただきつつ、対象については検討してまいりたいと思います。

(F 委員)

立川ホテル旅館組合っていうのがあるのを初めて知りましたので、これまであまり立川観光コンベンション協会や市と連携がなかったような印象です。こういった意見交換ができる場があることは大切だと思います。

(事務局)

やはり宿泊を伴うと消費額が増えるという傾向はデータとしてありますので、近年は宿泊施設関連の委員がいらっしゃらなかったというのは、反省すべき点だと感じています。そういう意味で、B 委員に参加していただいたことは貴重であると考えています。

(B 委員)

ホテル旅館組合の説明をさせていただきますと、立川市内の宿泊施設が加盟していますが、すべての施設が加盟しているわけではありません。基本的には中小・零細の宿泊施設の集まりです。ワシントンホテルはホテルチェーンの施設ですが、私自身が地元の人間ですので、加盟させていただいております。

(H 委員)

DS.INSIGHT のデータ分析についてですが、キーワードの検索結果についても市内・市外が分かるといいと思いました。見てみるとともローカルな特定のお店の名前が入っていたりするので、そういう視点も面白いかなと思いました。

(事務局)

そういう分類が可能かどうか、確認します。

(B 委員)

DS.INSIGHTについて、こういったサービスは似たものを他の事業者も提供していると思いますが、LINEヤフー株式会社が提供するものにした理由はありますでしょうか。

(事務局)

DS.INSIGHTを含む複数のサービスを比較検討したのですが、コスト面や必要性などを考慮した結果、DS.INSIGHTを導入することにしました。他のサービスでは、あるユーザーの動きを個別に追えたり、より精密な分析ができるものもありましたが、費用対効果という視点から、行政が導入する必要十分なサービスという点を重視しました。人流データについては推計値で算出しているなどの特徴がありますので、その特徴を踏まえたうえで利活用していければと考えています。

(副会長)

観光については2つキーワードを考えていて、1つは、インバウンド型でどう政策を打つかという形の観光と、いわゆる地域経済交流型の観光、この2通りをしっかり分けて考えないといけないと感じています。例えば、海外から人を呼ぶよりも、横田基地があるので、そこに住んでいる人に対してプロモーションをした方が効率いいのではないか。そういった、実際アクションするときのベースとなる考え方を整理することが大切だと思います。また、イベントを単発で打つのではなく、街の観光インフラを整備していくという考え方方が大切だと思います。例えば、デジタルスタンプラリーなどのコンテンツも、年1回だけのイベント的なものではなく、定期的に数か月に1回開催されている状況を作っていくなどの取り組みが考えられるのではないかでしょうか。

先ほど話題にあった羽衣ねぶた祭についても、商店街のメンバーに2人位キーマンの方がいらっしゃって、協賛金など集めていたのですが、そういう方がいなくなったりしたときにイベント自体がなくなってしまうということになるかと思います。商業者は、自分のお店を休業してイベントに取り組んでいるという方も多いので、そういう無理があるやり方ではない別の方法を模索していくことが必要なのではないかと思います。グリーンスプリングスのような「あの場所に行きたい」という方向に時代は向かっているのかなと感じています。横田基地でPRすると、実際に海外の方がお店に来てくださるので、そういう立川の特異性も考慮しながら、観光施策を考えていった方がいいかなと感じます。

(E委員)

今日、データを見ていて面白かったのは、国営昭和記念公園への来訪者が横浜市の方が一番多いということで、今後もその傾向が続くのであれば、有効な市場になるのかなという気もしています。これに関して、横浜市在住の人がどういうキーワードを検索したかというデータもわかるのでしょうか。

(事務局)

可能かどうかを確認します。(⇒後日確認したところ、傾向はわかるものの、ピンポイントでの検索は難しいことがわかった)

(E委員)

そういういた視点でもう少し深掘りすれば面白いのではないかと思います。他にも色々あるのですが、時間もないで後日メールでお送りします。

(会長)

以上で議題は終了となります。その他について、事務局から何かありますでしょうか。

(事務局)

今年度はあと1回の開催を予定しております、令和6年2月または3月に開催予定です。詳しい日程については事前に調整させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

(会長)

ありがとうございます。それでは、これで令和5年度第1回立川市観光振興計画協議会を閉会します。